

## 今週のメニュー

### [トピックス](#)

4年ぶりのAPVN総会 京都で開催

### [随想](#)

古代ヤマトの遠景(41) - 【前方後円墳】(2) -

信越化学工業(株) 木下 清隆

### [編集後記](#)

## トピックス

### 4年ぶりのAPVN総会 京都で開催

アジア・太平洋地域における環境に関する産業界の情報ネットワークとしてAPVN (Asia-Pacific Vinyl Network) が結成されてちょうど10年になる今年、APVN総会が先月、京都で開催されました。

APVNは国際組織ですが日本の社団法人であり、事務局はVEC内にあります。会議ホストとして、準備段階では、ちょうど「時代祭り」開催期間に重なったため、ホテルの確保が大変でしたが、一方ではインフルエンザの影響で、参加者が激減したらどうしようと内心心配もしておりました。しかし、この経済、社会の状況にも関わらず塩ビを生産しているアジア各国から、多くのメンバーが成田、関西、福岡とそれぞれのルートで京都に集結し、欧米からのゲストを交えて、活発な議論が行われました。(念のため、会議場には、アルコール消毒液とマスクを準備しておきましたが、結果的には、気を使ったのは日本人だけだったようです。)また、今回はこの総会にあわせて塩ビのリサイクル施設の見学会を実施いたしましたので、概略を紹介いたします。

総会には、メンバー国9カ国から19人と欧米の塩ビ協会からゲストスピーカーとして4人が参加しました。毎年、アジア各国から地域の活動状況などが報告されますが、特に議論が活発だったのは、パイプに関する話題でした。アジア各国では、まだまだインフラの整備が進んでいないことからパイプの需要が伸びています。中でも、日米から講師を呼び、塩ビパイプの特性や施工技術に関するセミナーを開催し好評を博したことがフィリピンから報告がありました。また、塩ビパイプの健全な普及の



APVN総会

ためには、パイプの規格の統一性が必要であるとの認識から、引き続き日米欧の強力なバックアップの下セミナーを開催するなど、更なる取り組みを行うこととなりました。

日本からの報告として、塩ビリサイクル品の実物を展示して、リサイクル状況を説明したところ、皆に大変関心を持っていただきました。中でも、フラクタル日よけについては、サーモグラフィーで測った地面温度の変化を示したところ、実際に設置してあるところを見てみたいとの申し出もありました。アジア諸国の多くは暑い国ですので、フラクタル日よけの効果には大変驚かれたようです。

さて、これまで日本ではVEC、JPECが塩ビのリサイクル技術支援に力を入れていることを説明してきたこともあって、日本での総会開催の折には、ぜひリサイクル施設を見学したいとの要望がメンバーから寄せられておりました。そこで、しばしばメルマガでも紹介している、叩解機を使った壁紙のリサイクル施設を案内することとして参加者を募りましたところ、京都での会議にもかかわらず、ほぼ全員が観光ではなくリサイクルツアーを選択し、更には、前日になって参加したいという人も現れて、結局総勢18人の大人数で新幹線に乗って姫路まで出かけました。



リサイクル工場見学参加メンバー

向かった先の工場では、回収された塩ビはどうなるのか、パルプ部分はどうなるのか、回収率はどのくらいか、機械の値段は？納期は？などと質問をしながら、先方のご好意により撮影が可能であったため、熱心に写真も撮りつつ、塩ビと紙に分かれてくる工程を皆興味深く見て回りました。

2000年の横浜でのAPVN開催時には、日本でも立ち上がったばかりのフィードストックリサイクル施設の見学を企画しましたが、この時は5～6人の参加しかなく、今回のツアーでアジアの国でもリサイクルへの関心が大いに高まっていることを感じさせられました。(了)

## 随想

### 古代ヤマトの遠景(41) - 【前方後円墳】(2) -

信越化学工業(株) 木下 清隆

箸墓古墳が生まれると堰を切ったように、日本の各地に同じ形式の前方後円墳が築造されるようになる。この内、王墓・王族墓と目される大型の前方後円墳については特異的な発展の仕方をする。それは王墓等が1ヶ所に集中するのではなく、時代と共にその場所を移動するのである。具体的には大和平野の南東部から北部へ、更に場所を変えて大阪平野へと移動する。これらの墓は移動した地域の、特定の場所に集中的に築造されたことから固有の名称が与えられた。それらを整理すると次のようになる。

#### 1. おおやまと大和古墳群

3世紀中葉過ぎから4世紀中葉にかけて三輪山を取り囲むように築造された古墳群。ここには北から南へ「大和古墳群」「柳本古墳群」「箸中古墳群」「鳥見山古墳群」の四つが存在しているが、これらを総称する名称として大和古墳群が使用されることもあり、一般化はしていないがここではこれを使用している。この古墳群の中で著名なものとしては、先に掲げたに「箸墓古墳」(280m)があるが、これ以外に「行灯山古墳」(242m、現崇神天皇陵)「あんどんやま渋谷向山古墳」(310m、現景行天皇陵)等が知られている。「現あんどんやま天皇陵」とあるのは、現在までにそのように伝えられてはいるが、その真偽は不明という意味である。なお、箸墓古墳は大神神社の近くに位置し、車ですぐ側まで行けるので、その優美な姿と大きさを満喫することが出来る。崇神陵と景行陵も箸墓古墳のすぐ近くにあり国道169号に面しているので分かり易い。

## 2. 佐紀盾列古墳群<sup>さきただなみ</sup>

4世紀中葉から5世紀にかけて佐紀地域に造られた古墳群。現在、近鉄西大寺の東側一帯で平城京の復元作業が続けられているが、佐紀盾列古墳群はこの平城宮の北側一帯に広がっている。著名なものとしては「五社神古墳」(276m、現神功皇后陵)があり、この他に大きいものとしては「ウワナベ古墳」(265m)、「コナベ古墳」(204m)等がある。ウワナベ古墳は奈良から木津へ抜ける国道24号線に面しているので、車窓からでもその大きさが窺える。



平城宮跡・朱雀門(復元)

## 3. 古市古墳群と百舌鳥古墳群<sup>もす</sup>

4世紀末になると、大阪平野の東西に古市古墳群と百舌鳥古墳群がほとんど同時期に出現する。その後、拮抗するように東西で巨大前方後円墳が築造され続けるが、その終焉は共に6世紀前葉とされている。

「古市古墳群」は、大和川が大阪平野に流れ落ちる一帯で、現在は羽曳野市・藤井寺市にまたがる地域の古墳群のことである。

ここで有名なのは「誉田御廟山古墳」<sup>こんだごびょうやま</sup>(420m、現応神天皇陵)である。その正面は国道170号から脇に入ってすぐの所にある。この墳墓は町中にあり、木立、住居に阻まれて周りからはほとんど見えない。



誉田御廟山古墳  
(現応神天皇陵)

「百舌鳥古墳群」は、阪和線の「百舌鳥駅」からすぐの所にある。ここで有名なのは、

現仁徳天皇陵で親しまれている日本一巨大な「大仙陵古墳」(486m)である。この御陵は周りを歩道が廻っており、40分ほどで一周できるが濠の周りは木立が生い茂り、陵墓そのものはほとんど垣間見ることが出来ない。この他、大きいものでは「上石津ミサンザイ古墳」(365m、現履中天皇陵)、「土師ニサンザイ古墳」(288m)等がある。後者の土師ニサンザイ古墳は、大きな濠を廻る樹木が全て伐採されているので極めて見通しが良く、300m級前方後円墳の巨大さを実感するにはお奨めの古墳である。

以上に各古墳群の概要を述べたが、その規模はまちまちである。古市古墳群の場合、小さな円墳・方墳まで入れると全体で100基ほどの墳墓が発掘されており、前方後円墳の数は30基程度とされている。この内、100m超級の前方後円墳は3基、200m超級ものは5基、300m超級1基、400m超級1基と数えられている。

このような巨大古墳群は畿内だけに見られるもので、地方でも結構大きなものが築造されているが、これ程大きなものは造られていない。このように前方後円墳は畿内を中心に全国的に築造されたことから、この時代を古墳時代と称している。その始りは箸墓古墳が



築造された頃の3世紀中葉とされ、その終末は6世紀末葉とされている。これだけ巨大で大量の前方後円墳の存在が明らかになると、当然、次のような疑問が出てくる。

- (1) 巨大古墳の被葬者は誰か。
- (2) 当時のヤマト国家はどのような体制であったのか。
- (3) 何故に前方後円墳は大和から大阪平野に移動し、且つ巨大化したのか。
- (4) 巨大古墳は誰が築造したのか。

等である。これらの点の解釈の仕方によって、幾通りもの古代史が存在し得ることになる。今回はこのような問題について少し論じてみることにする。(つづく)

前回の「古代ヤマトの遠景」(40)【前方後円墳】(1)は、下記からご覧頂けます。  
[http://www.vec.gr.jp/mag/243/mag\\_243.pdf](http://www.vec.gr.jp/mag/243/mag_243.pdf)

## 編集後記

今年も早いもので11月に入り、本編集委員になって早5ヶ月が過ぎた事になります。先週、初めての宿泊出張で長崎へ行きました。プラスチック処理促進協会の廃棄物調査WG委員として、大村市や長崎県央県南広域環境組合(諫早市、雲仙市等4市をカバー)等の一般廃棄物の収集及びリサイクル処理設備を6ヶ所訪問しました。各自治体・施設運営者とも苦勞されながらゴミ問題に取り組みられておられる事が分かりました。特に、諫早市ではガス化溶融炉を用いてエネルギーの再利用は勿論、塩ビ等の塩素は工業塩で回収する等ゼロエミッションを達成されておりました。夜は塩ビサイディングが施工されている“やまびこ会館”のある雲仙温泉に泊まり、一日の疲れを取る事も出来ました。(薩弘)



建物全体に塩ビサイディングが施工された“やまびこ会館”  
(クリックで拡大)

## 関連リンク

[メールマガジンバックナンバー](#)

[メールマガジン登録](#)

[メールマガジン解除](#)



編集責任者 事務局長 東 幸次

東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601 FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.gr.jp> E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)